

厚生労働

4

2009. April

特集

平野 美穂

地域からの発掘

この人・素直な話

この人
な話

がんは、誰もが罹る病気。
励ますのが私の使命。

山田美子

「がんに関する普及啓発懇談会」メンバーになって

山田 懇談会座長の中川恵一先生と知り合いだったものですから声をかけられて、にぎやかしに入れられたのだと思います(笑)。

がん手術を経験して復帰してから、私ができることはPR活動だと思いますので全国に行ってシンポジウムや講演などやらせていただいています。

山田 祖母が乳がんだったので、大人になってから検診を心がけていました。それでも魔が差すということがあるのでしょうか、人間ドックに3年間行っていないかったです。病院は時々、先生がいなくなったり代わったりすることがあって、あれでつまずいて、どこの病院にしようかなと言っているうちに、がんであることが分かったわけです。

山田 テレビと本、後はやはり検診でしようか。行くとパンフレットがあった

り、先生のお話を伺ったりするので、他の人よりは知識があつたかもしれない。せん：それでもまんまと(笑)、なつてしまったわけですけども。

それでもいざなつてみたら、それまで漠然と思つていたのは全く違つていたことがたくさんありました。

がんはみんな權る身近な病氣

山田 ショックが無くはないでしょうね。それでも知識はあつたほうがいいと思います。私の場合は、もともと深くものを考えない(笑)、明るい性格です。考へて落ち込むという事はありませんでした。

それと、一番良かったのは、お医者さんとの出会いだと思つています。自分と相性の合う先生に最初から会えました。

すごく褒めてくれたんですよ。「よかつたですね、早期だつた。ラッキーだ、ラッキーだ」と言うので、「ああ、良かった」という気持ちのほうが強くなつて、告知で落ち込んだりすることはなかつたですね。「見つかつてよかつた」と思いました。

今でも講演でよく言いますが、ここが運命の分かれ道でした。これをもし進行が進んでいけば、こういう答えにはならないわけですね。大変な治療が



必要ですし、手遅れとなれば死ぬわけですから。ただ、手遅れでなければ必ず助かるんです。完治はしないからいろいろ面倒くさいこともあります。けれども、何も病氣をしない人よりも体のことに氣をつけるので、病氣を背負つたままずっと長生きすることが多いのです。よかつたと言うと変ですけど、早期発見して早期治療ができたことに感謝しています。

マスクミが取り上げるのは暗過ぎます。今、がんはそれほど暗いものでもないですよ。みんな權りますから。

山田 そうなんですよ。そう言われてみれば、身近でもよく聞きますね。だから「ああ、来たか」というぐらいで。

たとえ今日「治らないかもしれない」と言われても明日は治りますよ。医学はどんどん進歩しているので、望みを捨てずに前向きに、明るく元氣にといふのが、一番言いたいところです。

山田 中川先生はずるいんですよ(笑)。座長をして自分だけ格好いいんですよ。それで議題に詰まると「山田さん、どう思いますか」と、私をブレイクタイムに使つているところがあるんです(笑)。

ただ、後で議事録が回つてきて、まるで落語の本のように全部ちゃんと書き取つてあるのが素晴らしいと思つました。ホームページで公開されていて、全国で見られますので、責任重大だと思つています。

病院は忙しすぎる

山田 関東では「乳がんと言えばS病院」というところがあつて、行きつけの病院ではなかつたのですが、S病院に伺いました。

本当に驚いたのは、患者さんが多くて、予約を取つて行つていのにすごく

山田 邦子さん

Yamada Kuniko

この人 INTERVIEW 素敵な話



(やまだ くにこ)

昭和35年東京生まれ。56年、テレビドラマ『野々村病院物語』でデビュー、同時にバラエティ界にデビュー。以後、司会・ドラマ・舞台・講演・執筆等マルチな才能を発揮、NHK“好きなタレント”調査では8年連続第1位を記録。平成19年、健康番組出演がきっかけで乳がん罹患を発見し、手術を経て仕事に復帰。その後はがんについての講演なども精力的に行い、また20年には、がん撲滅を目指す芸能人チャリティ組織「スター混声合唱団」を結成し団長を務めている。

20年に発足した厚生労働省「がんに関する普及啓発懇談会」メンバー。

- 聞き手 鎌田光明・厚生労働省広報室長
- 撮影 山本祐之

手術の際に「誰に最後の判断を任せますか」と聞かれたときに、「主人ではなく「先生」とおっしゃってくださいね。」

医師に話したことでその保持はあきらむ。



山田 患者本人はもちろん頑張っているわけですが、主人を見ていて、本人以上に落ち込んだりしていることがよく分かりました。特に乳がんの場合には旦那さんが励まし合つて、私の主人も元氣になりました。そうか、家族も周りの人も落ち込んだりするのだ、これもまとめて応援して欲しいと思いました。

がん患者や周りの人を 応援するスター混声合唱団

山田 芸能人にもがんの人はたくさんいますが、芸能界は古い考え方があつて、病氣のことを隠すのです。健康なイメージがなくなると役がつかない、仕事の話が来なくなるということと、

嫌がられた時期があつて、私ですら、うちの事務所は古いタイプですから「隠そう」と言われたのです。

私は、「そんな時代じゃない。悩んでいる人がいるのなら言っていくのが私の仕事ではないか」と、公表することに決めました。

そうすると、よくぞ言ってくれた、私もまだ私もだと、芸能人が集まったわけです。「スター混声合唱団」をやるうということになって、とりあえず1回会つてやれば良いと思いましたが、あつという間に患者の方々、ファンの方々がついで、「すぐよかった」「次はいつですか」「もう一度やってください」「来年は、再来年は」となつていったのです。

今は情報時代ですから、連絡が如何ようにも入ってきます。電話、メールで「ここでもやってください」「私たちはこういう会です」と全国から来るわけです。一つひとつお返事をして、全部にお会いしています。マネジメントは素人ですから、手探りでやっています。

山田 今のところスケジュールは真つ黒です。やり過ぎですけどね。東京築地の国立がんセンターの中でもコンサートをやるといふ大変なことになりましたけれども。

スター混声合唱団は、歌唱力は二の次ですけど、笑顔と知名度が抜群



スター混声合唱団(厚生労働省で)

ですから、最初からマスコミの食いつきがよくて、新聞、雑誌、NHKのニュースでも流してくれました。団員もどんどん増えてきて、がんではない芸能人でも「マネージャーがそうだった」「親がそうだった」ということが入つてくださつて、今、68人というすごいことになってきています。

山田 あの時人数も少なかったですけど、音無美紀子さんや岩崎良美ちゃんも来てくれて、会議室ですからピアノもなく、アカペラで歌いました。

まあ、「合唱団」とはしていますが、アナウンサーの人も多いから朗読もし

ますし、女優がいますから寸劇のようなこともやりますし、パフォーマンスはいろいろです。歌わなくてもスター混声合唱団です。

イベントではウォークラリーもよくありますね。会にはスポーツ選手も入っていますので、小児がんの子どもたちが学校に行くことができないのならスポーツ選手を派遣することもできるということと、病院や支援団体と話を進めています。

皆さん、本当にノリがよくて、電話一本で来られます。スケジュールがだめなときは「だめです」と言うのも早いですけど(笑)。「行きます」と言われると、本当に来るのかなと思いますが、ちゃんと来られます。志が高くうれしいです。

山田 変えたいですね、「がん」という病名も変えられないですかね。私は「キョン」(笑)が一番好きなんです。

漢字の「癌」も山盛りのぶつぶつでしょう? そこにやまいだれですから、あの字も上だけ花かんむりにするとか(笑)、下は☆印にしてしまふとか、直してもらいたいですね。